登録有形文化財「藤岡家住宅」うちのの館（やかた）

平成二十七年十月一日（木）～十二月二十三日（水）

大坂の陣から四百年

伝「淀殿」の文字と時代の人々

「難波戦記」（安永７年）

狩野探幽下絵　蓋裏

（花兎料紙蒔絵文庫）

「新刻日本外史」

文政 12 年

秀頼公御母堂淀殿筆と極札

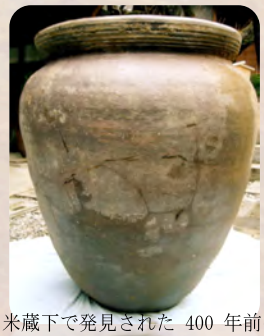
のある短冊（右）

〒637-0016 奈良県五條市近内町 526　☎とファックス 0747（22）4013

登録有形文化財「藤岡家住宅」　ＮＰＯ法人うちのの館

月曜休館・月曜が祝日のときは開館して翌日休館

高校生以上 300 円・小中学生 200 円



米蔵下で発見された 400 年前の

備前焼の甕

大坂の陣から 400 年

伝「淀殿の文字」と時代の人々

平成 27 年 10 月 1 日（木）～12 月 23 日（水）

登録有形文化財「藤岡家住宅」展示室にて

「北宇智村史」に、次のような記述があります。――伝うる所によれば、藤岡家の先祖は大阪夏の陣（1615・慶長 20 年　8 月元和と改元）に豊臣氏に味方した為、遠く此地に逃れ来て笠屋を始めたから、かさ屋といひ、又大阪から来たのだから“大長かねもち”など言ったのであろう。（原文のママ）――藤岡家の床下からは 400 年前に作られたと推定できる備前焼きの大甕が発見されており、形は桃山甕です。身を隠すために埋められていた甕であったかとも言われています。ほかに、加藤清正を描いた幟や人形、豊臣の紋章を表した欄間や襖、真田幸村（本名・信繁）の胄ではないかと思われる軸、淀殿が慶長年間に寄進した反橋（別名　太鼓橋）が彫られ、光があたると壁に美しい影絵を映し出します。大坂の陣を書いた「難波戦記」は、真田信繁が歴史に初めてその名が登場したという軍記物で、寛文 12 年（1672）に成立しました。藤岡家版は安永 2 年・1774 年にそれを筆写したものです。「秀頼公御母堂淀殿」という極札（鑑定札）がついた短冊は「手鑑」という古筆集に見つけました。短冊には「新古今和歌集」より前大僧正慈円の歌が書かれています。この手鑑には淀殿の短冊の前後に、同時期を生きていた人の文字が並びます。

権中納言冷泉為益の三女に生まれた為子（永禄 8 年・1565 年 ～元和 2 年・1616 年）は、淀殿（永禄 12 年・1569 年？～慶長 20 年・1615 年）とほぼ同じ時代に京に生きた女性です。最初は織田信長と親密な関係で織田家の人々からは今上皇帝とも呼ばれていた誠仁親王の女房となり、典侍局と称し、後に興正寺17 世・顕尊の内室となりました。顕尊との間に、如尊尼（西本願寺准如の妻）、准尊（興正寺第 18 世）らを産み、自身も得度して宝寿院祐心と号しています。戦国の乱世、信長や秀吉の影響を受けながらも、しっかり生きた女性という意味で、どこか淀殿と対照的な女性であるかと思います。

五條と関わりが深かったのは松倉重政（天正 2・1574 年？～寛永 7 年・1630 年）です。松倉重政は大和五条藩主ですから、一見、現在の五條市の全域を統治していたかのような印象を受けてしまいますがそうではないという点に注目しておかなくてはいけません。宇智郡（現在の五條市の、大塔町、西吉野町と和歌山県伊都郡真土村であった部分を除き、大淀町の佐名手を加えた地域）の中で、井手（居伝）近内・小和・千神（ママ）・六蔵（六倉）・原・山田・西阿田・東阿田・佐那手（佐名手）・坂合部郷（阪合部）・今井大沢あんしょう寺（安生寺）の内・須恵五条（五條）・釜窪・岡」が松倉領で、その他は天領でした。天領は畠山氏や小堀氏、庄田氏、根来氏らの知行所となっています。興味深いのは天正 13 年・1585 年、秀吉の根来攻めによって根来を出た元根来衆たちが 2000 石を抑えていたことです。重政はまだ少年の頃、筒井定次の部下として根来攻めに参加したであろうと思われますが、当時は豊臣方の武士でした。後に徳川方に変り、戦功を得て五條にやって来ます。根来衆たちが勢力をもつ五條の土地での治政は難航したことでしょう。

狩野探幽（慶長 7 年・1602 年- 延宝 2 年・ 1674 年）は、江戸時代初期の絵師です。探幽下絵の文箱も展示します。

登録有形文化財「藤岡家受託」管理法人　うちのの館（やかた）

〒637-0016 奈良県五條市近内町 526

☎・FAX0747（22）4013　午前 9 時～午後 4 時　月曜休館・月曜が祝日のときは開館して翌日休館

info@uchinono-yakata.com　http://www.uchinono-yakata.com